地域をフィールドに、芸術と科学の実践を通して社会に関わるプログラム

【香川大学学生用】
ぐんだらけ2026 参加学生公募要項

2024年度より、香川県東かがわ市引田を舞台に、アートとサイエンスの両面から過疎地域の課題解決に取り組むプロジェクト「ぐんだらけ」を進めています。
2026年度からは、教員に加えて学生も参画するチームを編成し、地域課題に向き合う事業の企画・実践に取り組みます。
2026年6月から2027年3月までの活動に参加し、自身の専門分野を起点に、地域社会に実装する実践に取り組む学生を【東京藝術大学から**5**名】・【香川大学から**10**名】募集します。

応募フォームはこちら
応募期間：2026年5月7日（木）～5月26日（火）24:00

【オンライン説明会について】
日時：2026年5月7日（木）10:00~11:00
▸ Google Meet： https://meet.google.com/dxn-zbji-rys
※アーカイブ視聴可

（関連事業）
地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）
SIOME 東京藝術大学×香川大学 せとうちART & SCIENCE：https://setouchi.ac/

（教員）

▼プロジェクトリーダー
- 宮崎晃吉：芸術未来研究場 特任准教授 [専]建築

▼主なプロジェクトメンバー
- 稲継美保：東京藝術大学 芸術未来研究場 特任助教 [専]パフォーミングアーツ・アートプロジェクト
- 馬場悠輔：東京藝術大学 芸術未来研究場 研究員 [専]アートプロジェクト
- 柴田悠基：香川大学 創造工学部 准教授 [専]アートプロジェクト
- 三谷なずな：香川大学 イノベーションデザイン研究所 特命助教[専]アートマネジメント
- 佐藤光：香川大学 イノベーションデザイン研究所 特命助教[専]まちづくり・自治体連携

（お問い合わせ）

三谷なずな：香川大学 イノベーションデザイン研究所 特命助教
Email：mitani.nazuna@kagawa-u.ac.jp

目次

01.ぐんだらけについて **3**
02.参加する学生の位置付け **4**
　　ープログラムにおける参加学生の位置付け 4
　　ー参加を期待する学生像 4
03.具体的な活動内容 **5**
　ー5つの活動領域について 5
　　①産業： 5
　　②地域資源（空き家）： 5
　　③教育： 5
　　④文化継承： 5
　　⑤場作り： 6
03.公募条件 **7**
　ー公募人数について 7
　ー応募資格/応募対象 7
　ー活動費の支給について 7
04.応募方法 **8**
　ースケジュール 8
　ー必要な情報 8
　ー選考方法 9

オンライン説明会について

2026年5月7日（木）10:00~11:00にオンライン説明会を開催します。
事業の概要をお伝えすると共に、応募するにあたり不明な点を気軽にお聞きいただける機会とさせていただきます。

活動のスケジュールや関わり方は、領域や参加する学生によって異なります。
不明点や気になる点がある方は、ぜひ説明会でご確認ください。

参加希望の、東京藝術大学・香川大学の学生は、下記のURLからご参加ください。

▸ Google Meet： https://meet.google.com/dxn-zbji-rys
※アーカイブ視聴可

01.ぐんだらけについて

ぐんだらけの概要や活動フィールド、過去の活動実績は、下記の資料をご確認ください。

学生用_紹介資料



ぐんだらけとは、多様な主体が対話し、
地域課題と向き合う場をひらく、地域実装型まちづくりプロジェクトです。

2024年度より、東京藝術大学と香川大学の連携により、東かがわ市を舞台に始動したまちづくりプロジェクトです。歴史ある港町・引田に拠点「ぐんだら家」を構え、アーティスト、研究者、学生、地域住民など多様な人々が交わり、それぞれの立場から主体的にまちづくりに関わる場を生み出していきます。プロジェクト名の由来となった、引田の方言「ぐんだら（＝だらだらとおしゃべりすること）」をキーワードに、アートや科学を切り口とした多様な対話を通じて、地域社会の課題とその向き合い方をともに考え、実践していきます。

02.参加する学生の位置付け

ープログラムにおける参加学生の位置付け

公募により選出された学生は、ぐんだらけの活動を担うメンバーとして参加します。
個人での制作や研究にとどまらず、プロジェクトの企画・運営、アーティスト／研究者との協働、地域住民との関係構築を担い、チームとして実践に取り組みます。

具体的な役割や活動内容については、次ページをご確認ください。

ー参加を期待する学生像

本プロジェクトでは、演劇的アプローチをはじめとするソーシャルエンゲージドアートや、建築的思考による場づくりなど、アートの側面から地域に関わる実践を行います。一方で、地域コミュニティで生じている現象の分析や、まちづくりの視点から拠点運用のあり方を検討するなど、サイエンスの側面からの実践にも取り組みます。

こうした社会実践においては、
・アーティスト・科学者・行政・地域住民・地域産業など、多様な主体との対話
・参加や協力を促すプロジェクト設計・企画
・それらを実現するための予算設計
・将来的な社会実装を見据えた自走の仕組みづくり
・実践の価値を社会に伝えるための言語化
など、「アート」「サイエンス」といった専門分野に限らず、多様なスキルが求められます。

領域を横断しながら、地域社会に関わる多様な立場の人々と協働し、アートやサイエンスの社会実装に関心を持つとともに、自身の専門性を起点にアプローチを構想・実践できる学生を広く募集します。

03.具体的な活動内容

2026年度の活動は、大きく5つの領域に分かれます。
公募で選出された学生は、フィールドのリサーチを進めながら、最終的にはその5つの領域に所属して実践に取り組みます。
応募フォームではあらかじめ、各自の取り組みたい領域の希望を聞きますが、調査後に異なる領域に参加することや、横断しての取り組みも可能です。

5つの活動領域について

①地域産業/資源：

[概要]
地域産業/資源領域では、歴史ある地場産業である醤油蔵 かめびし の空き地・空き家を基盤に、伝統的な「むしろ製法」と地域農業を主体とした「庭」をつくります。ここでいう庭とは、個々人が一定の距離を保ちながら、素材や環境、時間のプロセスに関与することで、ゆるやかに他者と接続される場です。
それらの環境づくりに一緒に取り組むメンバーを募集します。

[参加してほしい学生像]
・庭の設計（構築物、環境、システム設計を含む）に興味がある方
・場の運営（コミュニティづくり）に興味がある方
・研究として参与観察、分析、リサーチ等に興味がある方

[その他]
本プログラムは、場の設計から制作、運用までを含めたプロセスを重視しており、参加者自身の専門性と他の分野との協働を通して、この場特有の生態系を構築していくことを目指します。

②教育：

[概要]
教育領域では、引田小学校で実施されている土曜日授業という枠を起点にして、通年で地域の子供達の日常と「ぐんだらけ」の接点をつくっていきます。ゲストアーティストを迎えたワークショップや地域との交流を通して、大いに遊びながら活動します。

[参加してほしい学生]
・「過疎地域における教育現場」という抽象的でつい深刻に捉えてしまいそうになるテーマを、子供や親の日常を通して具体的に体感し、捉え直し、自身の言葉で編み直し表現していく事に興味がある人

[その他]
・　本プログラムは通年に渡って全10回の土曜日授業と、年2回のぐんだら家オープンアトリエを実施します（7月と10月を予定）。その全てに参加することは実質難しいと思うので、それぞれのスケジュールで相談しながら関わり方を決めていけたらと思います。

③文化継承：

[概要]
文化継承領域では、地域に根付く慣習や行事を、現代の社会状況の中で再編し、次世代へと引き継ぐためのアートプロジェクトに取り組みます。

対象とするのは、2000年から続く地域行事「引田ひなまつり」です。
近年、祭礼や年中行事は、担い手不足や世代間交流の希薄化により、その継承が困難になっています。本プロジェクトでは、こうした課題に対し、外部者であるアーティストや学生が地域に関わることで、新たな関係性の構築を試みます。

2025年度には、東京藝術大学・香川大学の学生・教員による5組のアーティストが、約3ヶ月間にわたり、フィールドワークや地域住民との対話をもとにリサーチを行い、作品制作に取り組みました。

2026年度は、引田における商家（山側）と漁師町（海側）の分断や、協働の希薄化といった課題に対し、社会関与型アート（SEA）の手法を用いて、地域内の関係性の再構築に取り組みます。
2027年3月に開催される引田ひなまつりに向けて、地域住民とともに制作を進めるワークショップを実施し、そのプロセスを含んだ作品として発表します。

また、臨床心理学分野との協働により、外部者の介入が地域内の関係性にどのような変化や揺らぎをもたらすのかを検証し、価値観の変容や新たな関係性の生成の可能性を探ります。

[参加してほしい学生]
- アートマネージャー：地域住民との関係性を構築しながら、アートプロジェクトの企画・運営に主体的に関わりたい人（例：企画設計、進行管理、地域との調整、記録・広報など）
- アーティスト：社会関与型アート（SEA）の手法を用い、地域との関係性の中で作品制作やワークショップを実践したい人
- 研究者：アートプロジェクトが地域社会にもたらす影響や、関係性の変化、価値観の変容について、リサーチや分析を行いたい人

[その他]
- 本プロジェクトは、2027年3月に開催される展示イベントでの成果発表を前提として進行します。展示期間周辺は、運営および作品制作のため、現地（東かがわ市引田）での滞在・活動を推奨します。
- 活動はオンラインでの打ち合わせ・企画進行を基本としながら、定期的に現地でのフィールドワークや制作活動を行います。現地活動の頻度は参加メンバー間で調整しますが、目安として2ヶ月に1回以上の参加を想定しています。

④場作り:

[概要]
地域やコミュニティ活動でよく使われる「場づくり」という言葉。
空き家を改装したり、カフェを開いたりと、“場所”をつくることに注目が集まりがちですが、実際には「人が来ない」「入りづらい」といった課題も多く見られます。

では、人が自然と集まり、関係が生まれる“場”とは何か。

本プログラムでは、この問いに対して明確な正解を教えるのではなく、参加学生や関係者とともに探っていくことを目的としています。

担当教員が仮説として持つ「居場所感」「関係性」「役割（係）」といった視点を手がかりにしながらも、それが本当に有効なのか、どのように機能するのかを、観察や実践を通して検証していきます。

ハード（建築・空間）ではなく、ソフト（運営・関係性・体験）に焦点を当て、利用者目線・運営者目線の両方から場を捉え直します。
実際の拠点（ぐんだらけ）をフィールドに、場のあり方そのものを一緒に考え、試し、更新していくプログラムです。

[参加してほしい学生]
- 「場づくり」に興味はあるが、正解が分からないこと自体を面白いと思える人
- 教わるだけでなく、自分も問いを持ち、考え続けたい人
- 人の行動や心理、関係性に関心がある人
- コミュニティや場の運営に関わってみたい人
- 未完成な状態や試行錯誤を前向きに楽しめる人

※建築・空間設計そのものを体系的に学びたい方には、本プログラムは適していない可能性があります。

[その他]
- 本プログラムは、完成された知識やノウハウを提供するものではありません
- 担当教員自身も仮説段階にあり、参加者とともに検証・更新していくスタイルです
- 「教わる場」ではなく、「共に考え、共に試す場」であることをご理解ください
- 実際の場（ぐんだらけ）を活用したフィールドワークを行います
- ハード（空間）よりも、ソフト（関係性・運営）に重きを置きます
- 不確実さや試行錯誤のプロセス自体に価値を見出せる方に適しています
- ぐんだらけで開催される別のプログラムに参加し、「場」を観察することもあります

04.公募条件

公募人数について

- 東京藝術大学所属の学生：5名
- 香川大学所属の学生：10名

応募資格/応募対象

（香川大学所属の学生）

- 研究室、ゼミ又は公認サークル等の担当教員の許可を得ていること
  - 研究室に所属していない場合は、所属学部・学科の教員等に事前に相談のうえ記入してください。（研究室所属など指導教員が不明な学生は、キャンパスアドバイザーに学業とのバランスなどを相談のうえ、参加をお願いいたします。）
- 選出された場合、制作過程・作品の記録データを研究・広報目的で使用（論文・記録集等掲載含む）することを許諾できること
- 学研災・学研賠保険に加入していること（採択された場合でも、保険に加入していない場合はプロジェクトに参加できない）

活動費の支給について

（共通）

- リサーチ後に企画する実践内容と予算案を元に、活動費を割り振ります
  ※領域によって現地活動の回数や期間が異なるためです

- 初期活動費として、１人５往復分まで交通費を支給
  ※リサーチなどで実施する全体活動の旅費・滞在費を含んだ額です
  ※一括ではなく、活動実態に合わせて支給されます

05.応募方法

応募フォームはこちら

応募期間：2026年5月7日（木）～5月26日（火）24:00

選考方法

応募フォームから提出された内容をもとに、書類審査を行います。
書類審査を通過した方には、オンライン面談（1回）を実施し、プロジェクトへの適性を総合的に判断した上で参加メンバーを決定します。

スケジュール

2026年4月28日（火）公募情報の公開
2026年5月7日（木）公募開始　※10:00~11:00にオンライン公募説明会を実施
2026年5月26日（火）24:00　公募〆切

※公募開始後、随時書類審査を行い、選出された方には順次オンライン面談を実施します。
※早めの応募を推奨します。

2026年6月3日（水）ぐんだらけ2026 プロジェクトメンバー発表
※選出された方には、6月3日までにメールにてご連絡します。
　その後の活動スケジュールや進め方についても併せてご案内します。

必要な情報

下記の情報を揃え、上記応募フォームより申し込みをお願いします。

①応募者情報＜必須＞
以下の情報を記入してください。
・氏名
・所属大学・学部／学科
・担当教員名　※必ず担当教員に許可を得て、記入してください
・メールアドレス
・電話番号

②これまでの活動実績に関する資料（ポートフォリオ）＜任意＞
これまでの制作活動やプロジェクト、研究内容などがわかる資料があれば提出してください。
・形式：PDFデータ
・容量：10GB以内
・ページ数・フォーマット：自由

※提出は任意ですが、選考の参考とします。

③関心のある活動領域とその理由　＜必須＞
本プログラムでは、以下の5つの活動領域を設定しています。

その中から関心のある領域を選択し、理由を記述してください。

・記述量：500文字以内

以下の観点を含めて記述してください。
・なぜその領域に関心があるのか
・これまでの経験や専門との関係
・本プロジェクトで取り組んでみたいこと